

平成20年度から28年度に採用された「若手の職員」へのインタビュー

～ 石川労働局総務部総務課人事係 編纂 ～

《労働基準監督官編》

問1. 数多ある就職先候補の中から、何故、労働局を選んだの？

- 職員A 小さい頃から、父親が私生活を犠牲にして働く姿を見て、現在の労働に疑問を感じ、この仕事なら労働環境の改善のために役立てると思ったから。
- 職員F 自分が学んだ法律の知識を生かせるから。
- 職員G 仕事内容に興味があったから。
- 職員I 監督・安全衛生・労災と多岐にわたる職務があり、自分の能力を監督官としてさまざまな場面で生かせるのではないかと思ったから。
- 職員K 労働時間が人生の大半であり何かしら誰かの役に立つと思ったから。
- 職員Q 霞ヶ関オープンゼミで、初めて労働基準監督官というものを知り、いろいろな現場に行き、実情を知り、職場環境の対策改善に関与することがとても魅力的だったから。
- 職員R 大学の専攻が労働法で、労働関係法令に興味があったから。広域で勤務できる国家公務員に関心があったから。
- 職員S 労働関係の講義を受講し、労働基準行政に興味を沸き、労働条件を改善したいと思ったから。
- 職員Y 仕事の内容に魅力を感じたから。

問2-1. 労働局に入って「良かったなあ」と感じたのはどんなとき(こと)？

- 職員A 普段は見ることのできないいろいろな仕事の現場を覗くことができること。
- 職員F 相談者や申告人から感謝されたとき。有給休暇を取得しやすいこと。
- 職員G 相談者の期待されていることに応えられないことも多いが、こちらの主張に対し前向きに対応してもらい状況改善が図れたとき。
- 職員I 工場や事務所などを含め、普段暮らしている分には縁のなさそうなところも、見聞できること。
- 職員K 基本的に定時退庁、有給休暇が取得しやすいこともあり、自分の時間が確保しやすいこと。また、監督署に対してかたいイメージがあったが、必ずしもそうではなく、とてもやりやすい環境であったこと。
- 職員P いろいろな業種の事業主(代表者)と直接話ができること。
- 職員Q 生活を支える基盤の「労働」に関わる相談を受けることは大変だが、頼りにされていると実感したとき。ほとんど残業が無いこと。
- 職員R いろいろな業種の工場や現場に行き見聞できること。
- 職員S いろいろな業種の事業主(代表者)や労働者と直接話ができ、世間の状況がつぶさに肌で感じられること。
- 職員X 年休を取得しやすいところ。視野が広がるどころ。
- 職員Y 様々な人の対応をしていく中で自分の成長を感じられること。

問2-2. 労働局に入って「大変だなあ、不満だなあ」と感じたのはどんなとき(こと)？

- 職員A 人事制度上、地元に戻れるのが早く7年目からというのは、両親の年齢を考えると少し長いように感じる。
- 職員I 残業があまりないため、給与の額としては多くはないこと。
- 職員Q 今後、全国区の転勤があるとのことだが、自分の希望が反映されるか心配なこと。
- 職員Y 希望通りに異動できるか心配なこと。

《厚生労働事務官(一般職)編》

問1. 数多ある就職先候補の中から、何故、労働局を選んだの？

- 職員B 現在では景気が緩やかな改善傾向にあります、やはり職に就くことができない方々が大勢いらっしや、そのような方々の力になりたいと思ったから。
- 職員C 人とかかわる機会が多い仕事をしたいと考えていたから。また、説明会での職員の方々の接し方がとても丁寧だったことに魅力を感じたから。
- 職員D 民間の就活を終えた友人の多くが第1希望の企業に就職することが出来ず、事業者と求職者のマッチングの難しさを感じ、新卒者の就活支援をしたいと思ったことをきっかけに労働行政に興味を持ったから。
- 職員E 官庁訪問に行ったときに職場の雰囲気や職員の方の対応がとてもよく働きやすそうだったから。
- 職員H 就職に関して自分自身不安を感じていた面があり、同じように不安を抱えている求職者の力になりたいと思ったから。
- 職員J 困っている人達を相手にする仕事だと思い、やりがいを感じられると思ったから。
- 職員L 大学のゼミで労働経済を専攻し、労働行政に興味があったから。様々な官庁訪問をした際に、国民と直接関わる職場だと聞いて、自分の力を役立てるのに最適の職場だと思ったから。
- 職員N 私の就活はリーマンショックの時代で、派遣切りなどが連日報道され、これらを通じ労働行政に大変興味を持った中で、官庁訪問で「仕事の自由度が高く、自分で考えて仕事ができる。」と聞き、この仕事がしたいと思ったから。
- 職員O 親族がハローワークを利用していたこともあり、非常に関心があったこと。
- 職員T 人の役に立てるような仕事に就きたいと考えていて、官庁訪問などの活動を通じて、興味を持っていたから。
- 職員U 教育や仕事という人生のライフスタイルに関わる業務を希望していたから。
- 職員V 国民の生活に根付いている労働行政にやりがいを感じたから。
- 職員AA 人生の中で重要な「働く」ということに関わることにやりがいを感じたから。人と関わる仕事があったから。

問2-1. 労働局に入って「良かったなあ」と感じたのはどんなとき(こと)？

- 職員B 職場の雰囲気の良さ、労働時間の適切な管理によって非常に働きやすい職場環境が整備されていること。
- 職員C 人とかかわることが多く、非常に楽しいこと。職場の人がみんないい人であること。
- 職員D 職場の雰囲気が良いこと。失敗しても上司や先輩がフォローしてくれ、改善方法を一緒に考えてくれること。
- 職員E 職場内が質問しやすい環境であること。有給休暇が取得しやすいこと。
- 職員H 休暇や残業等の労働環境が良く、プライベートの時間も十分確保できること。職場の上司や先輩にやさしい人が多く、相談しやすいこと。
- 職員J 上司や先輩が優しくて、仕事のしやすい環境であること。
- 職員L 窓口業務を通じ、利用者に感謝されることもあり自分の努力が報われ、とてもやりがいがある職場だと感じたこと。
- 職員M 私の職場は、先輩も頼りがいがある、とても恵まれていること。
- 職員N 今の仕事を任せ、「新規学卒者向けの合同就職面接会」を開催したとき、多くの利用者の参加を受け、数ヶ月の労苦が報われたとき。準備過程でも上司や先輩と改善策を協議し合い、これが結果し効果が出たとき。
- 職員O 2年目でありながら10年目の職員の責任を持った仕事が任せられたとき。また、様々な企業の方と話ができること。

- 職員T ハローワークは毎日多くの方々が利用しており、感謝されたり、怒鳴られたりメリハリのある職場環境の中、職員同士の間関係も上司にも質問しやすいなど整備されていること。そういった仲間との時間外の飲み会なども楽しいこと。
- 職員U 雇用保険窓口で来所者サービスの提供がうまくいき感謝されたとき。
- 職員V 間接的にはあるが、雇用状況の改善に一役かっていると感じたとき。
- 職員W 「分かりやすかった」とか「ありがとう」と感謝されるという貴重な体験ができること。休暇が取得しやすいこと。またマイペースで仕事もできることが多いこと。様々な人と会話することも多く、とても勉強になること。
- 職員AA わからないことをいつでも質問できる環境であること。職場の雰囲気がいよこと。
- 職員AB 休暇が取得しやすかったり、上司が丁寧に仕事を教えてくれるなど、働きやすいこと。

問2-2. 労働局に入って「ここは良くなかったなあ」と感じたのはどんなとき(こと)?

- 職員B 新規採用職員の人数が少ないことから、職場に若手が少数であること。
- 職員E 転勤があること。
- 職員H 同期等の若い職員が少ないこと。県外に移動の際、希望が叶うかどうか分からず不安なこと。
- 職員O ハローワークの地方移管などが報道され、先行きに不安があること。
- 職員V 新規採用職員が減っているため職場に若い声が少ないこと。